

高松塚古墳壁画保存管理施設（仮称）の設置にかかる基礎調査について

1. 調査の目的

国宝高松塚古墳壁画は、恒久保存対策方針のもと、石室解体事業を行い、仮設修理施設において修理作業を進めてきたが、令和元年度に完了した。

今後の保存・活用のための施設の設置に向け、施設の規模や展示、求められる施設機能、運営等の検討材料を集めるために、アンケート調査やヒヤリングなどを通じた基礎調査を行う。

2. 調査・分析の流れ

第1回ワーキング会議 [令和2年6月25日]

- ・調査の全体像
- ・調査項目の検討

- ・調査A 来場者のニーズの把握（アンケート）
[一般公開来場者アンケート調査]（7月、10月）
古墳壁画修理作業室の一般公開来場者の傾向やニーズ、評価を把握する
- ・調査B 認知度・関心度等の把握（アンケート）
[全国インターネット調査]（7月）
古墳壁画の認知度、保存管理施設への関心度やニーズを把握する
- ・調査A・調査Bの結果を横断的に分析（分析）
認知度、関心度別のクラスターの設定、古墳壁画の魅力的な表現手法やニーズ等を把握、それぞれのクラスターに対する最適なアプローチ手法を分析
- ・調査C 壁画保存管理施設と周辺地域との関連性の把握（ヒヤリング）
周辺地域の類似施設との連携を検討するため、いくつかの視点でヒヤリング調査を行い、保存と活用両面から課題を把握する

- ・ 調査D 周辺情報の整理（分析）
回遊促進や文化観光の可能性検討のため、奈良県や明日香村等の観光統計データを分析
- ・ 調査E 敷地のあり方の検討に資する情報の把握（分析）
これまでの調査結果から、施設概要（事業活動に必要な昨日、諸室構成、延床面積等）、敷地条件（敷地面積、屋外機能等）、展示テーマ・手法、収蔵・防災（保存・公開環境、防災対策）等を分析
- ・ 調査F 集客及び理解促進に関する情報の把握（情報収集）
適切な集客や知名度向上、利用促進を図るため、旅行・観光分野からの情報収集（ヒヤリング、アンケート）
- ・ 調査G 調査結果の分析と与件の整理（分析）
施設コンセプト検討のための要素、展開する事業活動の方向性、運営、施設整備の方向性等を抽出

第2回ワーキング会議 [令和3年1月中旬頃]

- ・ 各調査の結果報告を踏まえ、調査結果の分析や与件整理に向けた方針の検討

第3回ワーキング会議 [令和3年3月初旬頃]

- ・ 望ましい施設整備のあり方の検討